

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101091
法人名	社会福祉法人 善隣会
事業所名	グループホーム山径
所在地	〒 400—0001 山梨県甲府市和田町2948番地の6 電話番号 055—255—1217

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】平成20年10月17日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	8人 非常勤 2人 常勤換算 0.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2回建て 造り
	2 階建ての 2 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(120,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 平成20年10月17日 現在

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83、44 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	フジ内科クリニック、甲府共立病院、花園病院、国立甲府病院、若尾歯科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月10日

市街地から数分上ったところにあり、甲府盆地を一望できる眺望のすばらしい、このグループホームは、古くから、この地にある特別養護老人ホームにデイサービスと併設して建てられている。併設であることの利点を、最大限に活かし、学生や婦人会、老人会などの地域のボランティアを、積極的かつ、定期的に受け入れて、地域との交流を図っている。また、利用者が、敷地内を行き来し、理容や菓子販売などの、様々なサービスを利用できるように、支援したりしている。管理者をはじめ職員は、高い志のもと、質のよいサービスを利用者に提供できるよう、努力を惜しまない姿が見受けられる。今後、地域に向けて、認知症に対する理解を広めていけるような活動が期待される事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念について職員間で話し合い、地域密着としての機能を果たしていこうという確認がなされ、新たにパンフレットにも盛り込んだ。運営推進会議も2か月に一度、開催している。運営推進会議などを通して、地域の住民の意見を何うとともに、事業所から地域へ、認知症の理解を広める活動も行われつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者及びリーダーが、積極的に評価を意義あるものとして捉え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。全員が自己評価に取り組むことで、日々のサービスを振り返ることができ、職員間の話し合いも深まっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に一度、開催している。近況報告以外に、その時、課題になっていることをテーマに設定し、こまめに話し合いを行った。メンバーから、具体的なアドバイスをいただくことができている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月に一度、生活の様子を通信にして家族に知らせている。日々の様子が家族に伝わりやすいように、写真を利用者ごとに差し替えるなど、細かい配慮がなされている。また、家族と電話でのやり取りも密にし、家族が安心できるよう図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域の行事に参加している。また、学生や婦人会、老人会などの地域のボランティアを、積極的かつ定期的に受け入れて、地域との交流を図っている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム山径

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、笑顔とやすらぎのある生活をというグループホーム独自の理念を掲げている。地域に根ざした開かれた事業所としての役割を果たそうと努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一人ひとりの職員に理念が浸透しており、利用者が生きてきた歴史を大切にしながら、そのまま継続して暮らしていけるよう、利用者本位のサービスを第一に心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。また、学生や婦人会、老人会などの地域のボランティアを、積極的かつ定期的に受け入れて、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及びリーダーが、積極的に評価を意義あるものとして捉え、職員全員で自己評価に取り組んでいる。全員が自己評価に取り組むことで、気づきが得られ、日々のサービスを振り返ることができると捉え、質の向上に活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、開催している。近況報告以外にその時、課題になっていることをテーマに設定し、こまめに話し合いを行っている。そのため、メンバーから具体的なアドバイスをいただくことができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折に触れ、市の担当職員と連絡を取り合うことで、関係作りに努めている。市の職員が、新しく利用開始された利用者の様子を見に来られるなど、行き来する機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、生活の様子を通信にして家族に知らせている。日々の様子が家族に伝わりやすいように、写真を利用者ごとに差し替えるなど、細かい配慮がなされている。また、家族と電話でのやり取りも密にし、家族が安心できるよう図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、職員と、じかに話す機会も多い。家族が要望等を話しやすいように、雰囲気作りに努めている。また、家族から出た要望等については、必ず職員間で話し合いを行い、適切な対応ができるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめ、なじみの関係が築けるようにしている。やむを得ず異動がある際は、利用者にも、やわらかく伝えるなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や資格取得のための研修を、法人としてバックアップしている。また、定期的開催される法人内の研修の他、外部の研修にも業務に支障のない範囲で、積極的に参加できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、情報交換を行っている。また、同業者の見学や問い合わせを受け入れるとともに、他の同業者や障害者施設等の異業種の施設の見学も積極的に行い、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、利用者、家族と事前の面接を繰り返し行っている。また、必要に応じて、日帰りや泊りの体験利用も行い、利用者や家族が安心してサービスが受けられるような働きかけを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の、これまで生きてこられた歴史を大切に、個々を尊重した、かかわりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添う中で、利用者との会話を大切に捉えている。利用者が、何気なく発したことばを見逃さず、本人が望むことを大切にするよう努めている。職員が気づいたことを情報交換ノートに書き留めることで、利用者の意向などを共通理解できるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の計画を第一に考えている。担当職員が、計画の基礎となるものを考え、職員間で話し合いを行い、ケアマネージャーが、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1か月毎にまとめを行い、その積み重ねを大切に捉えて、計画の見直しを行っている。細かい変化には、職員の気づきを細かく記入している情報交換ノートを活用して、情報の共有化を図り、迅速に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設に来る、お菓子の移動販売や移動美容室などを積極的に利用している。利用者や家族の、外出や通院などの要望に対して、臨機応変に対応できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診と併設施設の看護師により、利用者の健康管理を行っている。個々の希望する、かかりつけ医の対応は、家族に対応してもらっており、事業所側から、情報を細かく提供したり、主治医と連絡をとったりしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者と家族の希望を第一に考え、受け入れ施設がない場合、対応マニュアルにより、利用開始時に家族と話し合いをして、方針を決め、併設施設や家族の協力を得て、対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ことばかけには、利用者の尊厳を傷つけないよう十分配慮するよう職員に徹底している。記録等の保管も鍵をかけるなど、取り扱いに十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の望む暮らしができるよう、一人ひとりの意向を知るよう努めている。利用者は、思い思いの場所で過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を、献立に取り入れている。果物の皮むきや盛り付けなど、できることを一緒に行っている。対面式のキッチンで、利用者も調理に参加しやすい環境である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が、希望する時間に入浴できるよう、支援している。毎日、入浴することも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯畳みや野菜作りなど、利用者にあった役割を提供し、張り合いを持って、生活していただけるよう支援している。ペットを飼うことが、利用者の気晴らしになっており、世話をすることが、楽しみになっている利用者も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近隣の散歩を楽しんでいる。食材の買い物の際は、希望がある利用者と一緒に出かけている。その際は、利用者のなじみの地域のスーパーに出かけるなど、配慮している。温泉に皆で出かけ、利用者に喜んでいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は見守りを大切にし、鍵をかけていない。併設の施設とも連携をとり、安全に留意しながら、利用者の行動を制限しないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と協力しながら、毎月、昼夜など設定を変え、避難訓練を行っている。災害に対してのマニュアルも作成されており、様々な災害に備えている。また、地域の消防団の協力も得て、点検・訓練も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れながら献立をたてており、併設施設の栄養士の指導を受けている。利用者の食事の量や水分量を生活状況表に記入し、職員間で把握しやすいようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースである居間からは、甲府盆地と周りの山々が広く見渡せ、四季を感じられるすばらしい眺めである。台所が対面式になっており、調理の様子が利用者にもよく見えるようになっていて、家庭的な雰囲気である。こたつスペースやソファが置かれ、思い思いの場所で過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室がある。利用者のなじみの家具を持ち込み、個々の好みに合わせた居室となっている。各居室からもすばらしい眺めが、広がっている。		